

## Fukushima Research Conferences の提案

**概要：** 廃炉関連の基盤研究を取り扱う『Fukushima Research Conferences (FRC)』を立ち上げ、福島県で継続的に開催し、廃炉研究関連分野における最高ステータスの会議を創る。

(本提案は、Gordon Research Conferences を一部参考にしています。ご存知のとおり、Gordon Research Conferences は、自然科学の分野で卓越した歴史と権威を有する会議であり、この会議での講演(すべからく招待)は研究者の目標の一つです。ご参考まで、GRC の web を記しておきます。  
<https://www.grc.org/>)

**目的あるいは効果：**

- 廃炉に関連する種々の分野で時代をリードする研究者が世界中から福島県浜通に集まり、密に議論を交わす。
- 学生、若手研究者も当事者として参加し、先導的研究者と議論を交わす。
- 各分野の研究がより活性化して成果に繋がるとともに、次世代専門家が継続的に育成される。
- 廃炉研究に関心を持つ若手研究者および学生の裾野が広がる。
- 年間を通してこの会議が開催され、福島県浜通に優れた人たちがコンスタントに集まる。当該地方の知名度を押し上げ、福島の地域・産業振興に貢献する。
- 廃炉研究のリーダーシップの一角を日本が担っていることが、世界的に認知される。

**企画内容：**

- Fukushima Research Conferences (FRC) を立ち上げる。
- FRC は、専門分野ごとの Specialized Conference により構成される。10 分野+α くらいか？例えば、<核種分析>、<過酷事故進展解析>、<被曝防護と除染>、<遠隔技術>、<プロジェクト・マネージメント>、<コンクリート建造物の保全>、<腐食予測と防食>、<検査技術>、<補修技術>、<燃料デブリの物性と処理>、<放射性廃棄物の処分>、<臨界管理>、など。
- 各 Specialized Conference は、年に一度あるいは隔年で開催。開催月をずらすことにより、毎月のように会議が開催されることになる。
- 各 Specialized Conference にはオーガナイザーを置く。オーガナイザーには、各分野で最も尊敬されている研究者を充てる。
- FRC の事務局は研究振興等の専門組織（例えば JST）が行う。あるいは JAEA など。
- 各 Specialized Conference には、招待制+認可制で研究者が参加する（旅費等は各自負担）。
- 個々の Specialized Conference の会期は例えば 3 日～4 日で、シニア会議(本体会議)とジュニア会議(学生主体)の両方を連続で開催する。学生の優れた研究には、賞を与える。例えば、年間 50 名（10 分野なら各分野 5 名相当）に、Fukushima fifty's award など。

(以下、CLADSからの提案)

\* Gordon 会議の発表内容は原則非公開だが、FRC ではそれを原則とはしない。

**27-28 年度における準備活動:**

- 文科省公募事業の枠内で各大学、高専、学協会が主催する専門家会合を pre-FRC として、プラットフォーム事業の中に位置づける。CLADS の国際協力活動費から若干の国外専門家招聘を組み込むことも可能。
- CLADS の国際セミナーを pre-FRC として、プラットフォーム事業の中に位置づける。
- 文科省公募の枠外の各大学、高専、学協会主催の福島廃炉関係の小規模な情報交換会議の類も、主催者から申出があり、プラットフォームの運営会議で承認されれば、pre-FRC の一つとして周知することもできるようにする。ただし、原則として開催費用は主催者負担。